

平成24年度社会福祉振興助成事業シンポジウム

「被災地における民間福祉活動を考える」

～ NPOなどによる中・長期的な支援の役割とあり方 ～

日時：平成24年10月31日（水）13:30～16:50

会場：千代田放送会館 2階ホールスタジオ



独立行政法人福祉医療機構

福祉と医療の
民間活動を
応援します！

本日のシンポジウムにおいて、会場内での写真撮影を予定しております。
なお、撮影した写真につきましては、WAM（独立行政法人福祉医療機構）
の機関紙等に掲載させていただく場合があります。

平成 24 年度社会福祉振興助成事業シンポジウム

被災地における民間福祉活動を考える

～ N P O などによる中・長期的な支援の役割とあり方 ～

 独立行政法人福祉医療機構

目次

■ プログラム	1
---------	-------	---

■ 基調講演	3
--------	-------	---

「2年目の『踊り場』から展望する被災地のこれから」

～ 多様な担い手の連携による復興をめざして ～

復興庁 上席政策調査官 田村 太郎 氏

■ 被災地での活動報告	6
-------------	-------	---

特定非営利活動法人 教育支援グループE d. ベンチャー	..	7
------------------------------	----	---

特定非営利活動法人 浦戸福祉会	..	13
-----------------	----	----

特定非営利活動法人 おおた市民活動推進機構	..	19
-----------------------	----	----

■ パネルディスカッション	23
---------------	-------	----

～ NPOなどによる中・長期的な支援の役割とあり方 ～

プログラム

13:30～13:45

開会

主催者あいさつ

来賓あいさつ

13:45～14:10

基調講演

「2年目の『踊り場』から展望する被災地のこれから」
～ 多様な担い手の連携による復興をめざして ～

田村 太郎 氏（復興庁 上席政策調査官）

14:10～15:10

被災地での活動報告

- ① 特定非営利活動法人 教育支援グループE d. ベンチャー
事務局長 家上 幸子 氏（活動場所：岩手県陸前高田市）
- ② 特定非営利活動法人 浦戸福祉会
理事長 中井 豊 氏（活動場所：宮城県塩竈市浦戸諸島）
- ③ 特定非営利活動法人 おおた市民活動推進機構
事務局長 中野 真弓 氏（活動場所：福島県南相馬市）

15:10～15:20

～休憩～

15:20~16:50

パネルディスカッション

<コーディネーター>

田村 太郎 氏 (復興庁 上席政策調査官)

<パネリスト>

阿部 陽一郎 氏 (中央共同募金会 企画広報部長)

市川 一宏 氏 (ルーテル学院大学 学長)

菊田 哲 氏 (岩手県中小企業家同友会 事務局長)

長谷川 秀雄 氏 (NPO法人いわき自立生活センター 理事長)

16:50

閉会

基調講演

2年目の「踊り場」から展望する被災地のこれから

～多様な担い手の連携による復興をめざして～

田村 太郎 氏（復興庁 上席政策調査官）

兵庫県生まれ。非営利民間の立場から地域社会を変革するしくみづくりに取り組む。阪神・淡路大震災で被災した外国人への支援活動を機に、多文化共生センターを設立。また「神戸復興塾」事務局長や、兵庫県「被災者復興支援会議」委員として、NPOの立場から神戸の復興に関与した。

神戸の復興に携わった経験から、東日本大震災直後に「被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト（つなプロ）」代表幹事や内閣官房震災ボランティア連携室企画官として、被災地におけるボランティア活動の円滑化や、復興まちづくりのための取り組みに携わり、2012年2月から復興庁上席政策調査官（非常勤）として官民連携での復興の推進に取り組んでいる。

著書に「好きなまちで仕事を創る」「阪神大震災と外国人」など。

講演要旨

1) 震災発生からこれまでにふりかえって

- ・ 被害が集中した高齢者と障害者
- ・ 避難生活などでも被害が拡大 → 「震災関連死」
- ・ 一人ひとりを大切にした災害時対応を再考する必要がある

2) 2年目の「踊り場」とは？

- ・ 復興は「階段」と「踊り場」の連続
→ 目に見える進捗が感じられない「踊り場」期のケアが重要

- ・ 「踊り場」期に必要なケアと考え方とは？

3) 多様な担い手が連携して進める復興のための「ロードマップ」

- ・ 2012年4月に「連携復興のためのロードマップ」を発表（復興庁）

- ・ 被災者の多様性に応えるのは、多様な担い手による丁寧な支援

- ・ 担い手間の連携・協働は、被災者支援に不可欠

4) これからの被災地支援への期待

- ・ 復興への見通しを「マルチステークホルダープロセス」で共有する

- ・ 踊り場から次の階段へ進む3年目に必要な支援とは

- ・ 多様な担い手の参画でひとりひとりを大切にしたい復興を！

被災地での活動報告

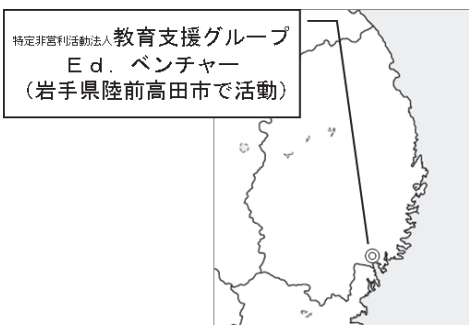
【活動報告団体の紹介】

◆ 特定非営利活動法人 教育支援グループ E d. ベンチャー

(活動場所：岩手県陸前高田市)

「被災地の子ども達の居場所づくり支援事業」 … P. 7

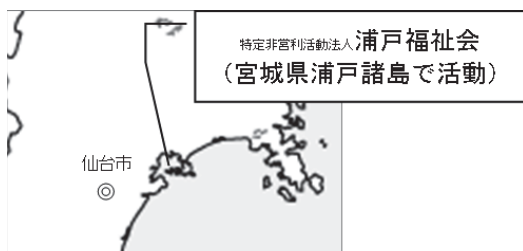
東日本大震災によって遊びと学びの場を無くした陸前高田市の子ども達に、親や学校の傍らでの居場所を確保することを目的に、同市の子ども達を対象として、定期的に遊びや学びのイベントを行い、学用品・教材等の必要な物資の提供を実施する事業。



◆ 特定非営利活動法人 浦戸福祉会

(活動場所：宮城県塩竈市 浦戸諸島)

「浦戸の震災復興のための高齢者生活支援事業」 … P. 13



津波被害を受けた宮城県塩竈市の離島・浦戸諸島において、島民の暮らしを取り戻すための生活支援を目的に、仮設住宅に入っている方及び一人暮らしの高齢者を対象として、ヘルパー等による定期的な見回り、保険外の生活支援、移動・買い物支援を実施する事業。

◆ 特定非営利活動法人 おおた市民活動推進機構

(活動場所：福島県南相馬市)

「緊急時避難準備区域南相馬の移送支援事業」 … P. 19

東日本大震災原発事故によって移動困難となっている、南相馬・相馬地域の障害者の移送手段を確保することを目的に、相双地域と東京都大田区の福祉関係者の連携により、移送支援のあり方を模索する事業。



【被災地での活動報告①】

被災地の子ども達の 居場所づくり支援事業



NPO法人 教育支援グループEd.ベンチャー
事務局長 家上 幸子

Ed.ベンチャーとは

● 設立経緯

外国人の子ども達の支援を行っていた教員、元教員、研究者、市民と外国人青少年当事者が中心となって設立

● 理念

外国人をはじめとした弱い立場の子どもたちが未来を生きる力をつける場としての公教育を支援する

● 活動

学校・教師支援、外国人支援

Ed.ベンチャーの被災地支援

- 活動開始の経緯

- 活動概要

陸前高田市学校・避難所支援

石巻市万石浦子ども支援

福島県富岡町学校再開支援

陸前高田市における支援活動

- 福祉医療機構助成事業

「被災地の子ども達の
居場所づくり支援事業」

期間：2011年8月～3月

活動内容：ニーズ調査

学校支援（物資提供）

遊びと学び活動

学習交流会

陸前高田市における支援活動

- 連携団体

現地被災学校

小友中学校

現地避難所運営団体

モビリア仮設住宅支援協議会

外国人当事者団体

すたんどばいみー

陸前高田市における支援活動

- ニーズ調査

- ・ 定期的に学校訪問（週1回程度）
- ・ 学校の様子、必要な物資について聞き取り
- ・ 現地の人材の活用
→スタッフ雇用、現地団体立ち上げ構想

- 成果（明らかになったこと）

- ・ 学校予算の不足
- ・ 教材、教育設備の不足…足りない教材
- ・ 集まる物資はニーズに合わないものもある
- ・ 教育実践について長期的見通しが困難
- ・ 行事前の物資依頼、日常消耗品のニーズ

陸前高田市における支援活動

- **学校支援（物資提供）**
 - ・ ニーズ調査に基づき、必要な物資を集める
 - ・ 現地教材業者を通じた物資購入
 - ・ 必要な時に、必要なものを、必要なだけ
 - ・ 非被災地との教育格差を最小限に
- **成果**
 - ・ きめ細かいニーズ調査に基づいた物資の提供
 - ・ 法人関係者に教員が多いという強み
→学校で必要なものが何か予想
 - ・ 学校事情に応じて迅速な対応が可能

陸前高田市における支援活動

- **遊びと学び活動**
 - ・ モビリア仮設住宅団地での子ども支援
 - ・ 遊びと学習
 - ・ 外国人青少年当事者団体
「すたんどばいみー」メンバーによる支援
- **成果**
 - ・ 経験を「ことば」に…外国人青年による
「経験の聞き取り」の意味
 - ・ 連携団体との連携による子どもの居場所
仮設住宅支援協議会、地域の中学校

陸前高田市における支援活動

- 学習交流会

- ・ 冬休み中の学習会の依頼
- ・ 当初の事業計画と変更
- ・ 中学校とのつながりから学習支援の依頼
- ・ 大学生スタッフ

- 成果

- ・ 日常とは違う人々との学習

陸前高田市における支援活動

- 重視したこと

現地の文脈を壊さないということ

- ・ 現地業者の支援・活用
地域にある「つながり」を分断しない
- ・ 現地スタッフの雇用、現地市民団体の立ち上げ
地域にある人材をつなげ、つらい経験をした子どもたちの長期的な居場所をつくりだす
- ・ 支援者・関係者に被災地の「実態」を伝える
報道やメディアの伝える姿、「がんばろう」のスローガンと実際の解離

Ed.ベンチャーがなしたこと

- 言葉にならない「ニーズ」をかたちに
不安、戸惑い →外部の聞き手の必要性
活動の「主体」になることの提案
→現地教育支援団体の立ち上げ支援
・教育支援チーム「まつ」
(学校支援、子どもの見守り、先生のサロン)
- 子ども達の「つらい経験」に向き合う
人々を支援
→被災学校、非被災地の学校、
「すたんどばいみー」三者交流会の開催

課題：外部からの「支援」に おいて考えるべきこと

- 被災地の「課題」は誰の「課題」か
被災地域、被災者個人の問題にしない。
- 現地市民団体の重要性と外部NPOの役割
非被災地の「スローガン」にからめとられない
現地の人々の手による「復興」は重要。
しかし、被災地のみ委ねるのは時期尚早。
- 教育・子どもの育ちは長期的営み
教育の成果は「今」測れない。10年後、20年後に、
子どもたちが今回の経験をどう整理できるか。
- 「われわれ」の場を問い直す

【被災地での活動報告②】

「浦戸の震災復興のための 高齢者生活支援事業」

特定非営利活動法人 浦戸福祉会
理事長 中井豊

□ 組織概要

設立年月:2001年6月

法人設立:2004年12月

◆ 団体設立と活動開始の経緯

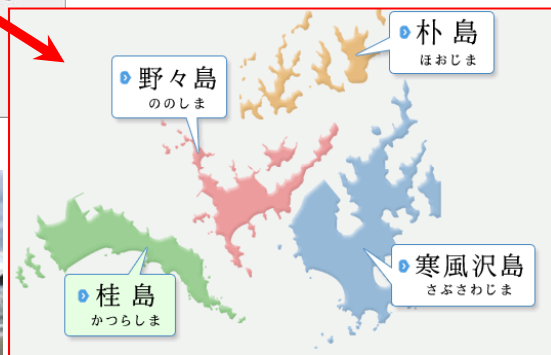
宮城県塩竈市の離島である浦戸諸島において、元々観光地としてのまちづくりの構築の推進、特産品販売場の研究観光地域の宣伝活動や、自然環境の保持、高齢者への在宅支援事業など、地域と社会の福祉の増進を図り、広く公益に貢献すること目的として設立された団体である。

震災前までは、ボランティアとして、島の清掃活動、観光客の案内、高齢者へのデイ・サービス等を行っていた。

□ 浦戸諸島について



浦戸諸島は、日本三景・松島の湾内に点在する桂島(桂島・石浜)・野々島・寒風沢・朴島の四つの島と五つの地区からなっており、名前の由来は松島湾(浦)の門戸から来ている。



□ 震災直後の活動

震災で、松島湾に位置する浦戸諸島は、津波による甚大な被害を受けた。

人口およそ400名、震災後およそ1ヶ月は定期船航路が瓦礫で寸断され、県内で最後まで孤立状態が続いた島の復興を目指し、各区長(現地災害対策本部長)を通じて必要物資のヒアリングを行い、自衛隊からのヘリコプターでの供給では追いつかない細かい物資について調達と搬送を行った。

また、避難所生活において必要な生活支援として理美容師の派遣コーディネーター、常設風呂設置のための必要材料調達と設営補助なども実施した。

その後、当初離島ゆえの危険性のため受け入れていなかった一般ボランティアについて、塩竈市災害ボランティアセンター(塩竈市社会福祉協議会)と連携のもと、現地コーディネーターとして、桂島にボランティアセンター機能を開設し、のべ6000名以上のボランティア受け入れを実施した。

□ 震災直後の様子



□ 助成事業を中心とした取組み

◆ヘルパーによる高齢者見回りと生活補助

高齢化率50%を超える島民の生活支援として、仮設住宅及び一般住宅両方について、介護福祉士や介護支援専門員やヘルパー2級資格者による見回りと生活支援実施中。

また、不自由な買い物や移動についても、専用船舶や移動用軽自動車を島に配置し、地域民生委員と連携の上、住民からの相談等にも対応している。

なお、今現在介護保険法に基づいた在宅支援業務も行っており、よりトータルでの高齢者支援体制を整備中である。

□ 助成事業を中心とした取組み

さらに月一回東京の社会福祉法人及び埼玉県のデイサービスセンターの協力を頂き、各島でサロンを実施。

内容については、介護予防体操、食事を島民の皆さんと一緒にふれあいながら作る昼食会やレクレーション(納豆の絆くじ引き等)を行っている。

島民の皆さんが繁忙期(牡蠣・海苔)の時は、仕事現場に出向き出張サロンになるときもしばしばあります。



□ その他の取組み

◆一般ボランティアのコーディネート

昨年より引き続き島のニーズに応じたボランティア受け入れを実施。活動するボランティア人員の供給は、連携する山形大学・福島教授や東北大学・河田教授、山形のNPO 法人ディー・コレクティブ等から協力を頂いている。

◆地元商店復旧の後方支援

浦戸4島5地区の地元商店の後方支援に回り、持船で商品を搬送し、そこから自動車で移動し仮設にて出張販売を行っている。

□ その他の取組み

○復興会議

月1回各地域島民、各大学教授・学生、各ボランティア団体、各企業、市職員、財団職員他が出席し、今後の浦戸諸島の復興に貢献。(今回で11回目となる)



○介護保険事業

島民の皆さんの要望により、介護予防訪問介護・訪問介護事業所「島の介護屋さん」を今年8月1日より開設。

○パソコン教室

興味のある島民の要望(孫にメールしたい、海苔・牡蠣等のネット販売に利用したい)があり実施。

□ 今後の活動予定

- ◆ 内陸で生活している方が島に戻ってきた時に、ある程度の生活の不便さが解消できているよう、たとえば災害公営住宅にサポートセンターを併設して、特に医療・介護面の支援を充実するようにしたいと考えています。
- ◆ また島の方々と共同で、医療・福祉の複合機能サービスの拠点設置も検討しています。

引き続き、島の方々がずっと島で暮らせるためのトータルな環境づくりのため、努力してまいります。

【被災地での活動報告③】

緊急時避難準備区域 南相馬の移送支援事業



特定非営利活動法人 おおた市民活動推進機構
事務局長 中野 真弓

事業のきっかけ



- ◆大田区被災地支援ボランティア調整センターの発足による区内NPOの結束
- ◆大田区に避難していた浪江町コーヒータムメンバーへの支援活動
- ◆相馬・南相馬への聞き取り調査の実施

東京都大田区のNPOと 南相馬のNPOとの連携



◆南相馬

NPO法人コーヒータイム
NPO法人あさがお
NPO法人さぼーとセンターぴあ
NPO法人はらまちひばり

◆大田区

NPO法人福祉コミュニティ大田
NPO法人たすけあい大田はせざんず
NPO法人ワーキングライフおおた
NPO法人風雷社中
大田区介護支援専門員連絡会
NPO法人おおた市民活動推進機構

大田と南相馬との連携



- ◆大田区内NPO団体の、日常的な横つながりを活かして、聞き取り調査で浮かび上がった課題、「移送支援」を検討
煩雑な事務と検証のための活動を担う
- ◆相双地域の精神障がい者支援団体のネットワーク力で、移送支援事業のスタッフを集める

移送支援事業「さっと」とは



移送支援事業「さっと」とは



- ◆実施期間
平成23年10月～現在も実施中
週5日（月～金曜日）祝日は休み 8時から17時頃まで
- ◆使用車両
7人乗り普通乗用車、福祉車両 各1台
- ◆移送目的
施設への通所（送り迎え）、通院（精神科以外も適応）
- ◆利用実績
通所利用者7～9名程度（1日平均） 通所先4事業者
通院2名程度（1日平均）
利用登録人数 30人

検証から見えてきたこと



- ◆サービス対象地域の空間的な広さ（距離）によるコスト高
- ◆利用者の状況に応じた的確なサービスの確保
- ◆利用者からの通院・通所以外の、要望の高まり
- ◆利用希望者が増大していること

今後に向けて



- ◆事業をいかに継続・持続させるか？の検討
- ◆助成事業から自立事業へ展開させるための方策の検討
- ◆さっと事業をひとつのビジネスモデルとして確立させ、全国へひろめること

パネルディスカッション

～ NPOなどによる中・長期的な支援の役割とあり方 ～

<コーディネーター>

- 田村 太郎 氏（復興庁 上席政策調査官）

<パネリスト>

- ◆ 阿部 陽一郎 氏（中央共同募金会 企画広報部長）

「じぶんの町を良くするしくみ。」を目指す共同募金改革を担当。昨年の東日本大震災の発生直後からボラサポ（赤い羽根・災害ボランティア・NPO活動サポート募金）の立ち上げをはじめ、被災地支援活動に携わる。また、企業・社協・NPO・共募によるプラットフォーム「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議」の事務局も担当。

- ◆ 市川 一宏 氏（ルーテル学院大学 学長）

1952年生まれ。早稲田大学法学部卒業後、東洋大学大学院博士前期・後期課程において、社会福祉・地域福祉政策を学ぶ。現在、日本キリスト教社会福祉学会会長、日本社会福祉士養成校協会副会長、神奈川県社会福祉審議会会長等、多数の学会や専門職団体、行政や社協等の役職を現任。石巻市社協地域福祉活動計画作業部会アドバイザー。

- ◆ 菊田 哲 氏（岩手県中小企業家同友会 事務局長）

福島県出身。宮城県中小企業家同友会、二戸市中小企業支援センター新事業コーディネーターを経て、2004年より現職。岩手県内420社の会員企業とともに、地域に根ざした、どんな環境にも揺るがない、強靱で柔軟な企業づくりに挑戦している。

- ◆ 長谷川 秀雄 氏（NPO法人いわき自立生活センター理事長）

1954年生まれ。福島大学中退。会社員勤務の後、1996年いわき自立生活センターの設立に事務局長として参加、その後2006年に理事長となる。2012年6月に3.11被災者を支援するいわき連絡協議会の立ち上げ、会長となる。

